

教育学部学生の学習生活についての調査研究（第1報）

岡 本 洋 三

Research on the Student Life in the Faculty of Education,
Kagoshima University (I)

Hiromi OKAMOTO

1 課題意識と調査方法

この調査研究は、学生の学習生活の実態と問題点をあきらかにし、大学教育の改善のための資料としたいという意図で計画された。大学は、大学で学ぼうという意思をもつ学生を入学試験で選抜し、学習能力のある学生を入学させているのであるから、高等学校以下の学校で問題となっている「学力不振」や「登校拒否」などは本来起り得ないはずである。しかし実際には近年留年者は増大し、期間満了で退学を余儀なくされる学生は無視しえない数になっている。また、一応、単位は取得できるが「学習意欲」が感じとれない学生も多い。真面目に講義に出席している学生でも主体的に学ぼうとしている者は多いとはいえない。このような状況はかなり一般的であり、留年や満期退学などはそれらの学生の「学力」の問題であるよりは、学ぶ「意欲」の問題であるという点から云えば、今日の大学生の多数はその意欲の状況からいうと潜在的な留年予備軍であるとみることもできる。

大学教育は、学生が学ぶ意欲と学びとる知的能力をもっていることを基本的な前提としていた。大学を志望することは学ぶ意欲があることを示すものだから、大学入学試験の「学力」検査でその知的能力を確かめればよい、というのがこれまでの入学試験の考え方であった。しかしこのような大学教育の基本的な前提や入学試験の考え方は、今日では事実上崩壊しているというのが我々の経験的な判断である。この変化の原因は簡単には論じられないが、さしあたり大学教育の大衆化の原因でもあり、また結果でもある「大学進学」についての社会的意識の変化という面と、現代の青年の人間発達上の問題を挙げておきたい。後者については、たとえば大学入試で示された「高い学力」が必ずしも「強い学習意欲」と結びついていないということ、あるいは近年の大学の文化祭にみられる幼稚な「おみこしパレード」と焼酎屋のはっぴを着た「露店」の盛況に象徴される「高校時代に経験すべき青春のエネルギーの放出」を遅ればせながら経験している姿などにみられる問題である。これらは主要には今日の学校教育のなかでつくりだされたものであろう。異常な「進学競争」と青少年の問題行動の激発のなかで、学校は「学ぶ」ことの意味を問わない「教育」に狂奔し、青少年を「管理」して「問題行動」をおさえこもうとし、青少年の人間的自立への発達を阻害しているように思われる。大学に入学している青年は「選ばれた青年」であり、これまでの学校生活を「順調に」おくらせてきた、学校の「教育活動」において「高く評価」され、「管理」のなかでとりたてて

第1表 教育学部生の意識調査質問表

◎該当する回答番号に○印をつけてください。

- | | |
|---|--|
| 1 あなたの性別は 1 男 2 女 | 6 生徒の意見をよくきく 7 生徒の気持をよく理解 8 生徒のことを心から思ってくれる 9 正義感 10 あたたかみのある人柄 11 なんでも話せる信頼感 12 その他 () |
| 2 あなたの所属は 1 小学課程 2 中学課程 3 養護課程 4 高体 (専攻・選修:) | 8 あなたの高校時代、「親友」とよべるような友だちがいましたか 1 いた 2 いなかった |
| 3 あなたの入学年は、昭和 1 56年 2 55年 3 54年 4 53年 5 52年 6 51年 | 9 あなたは高校時代、生徒会の活動にどのようなかわりかたをしていましたか 1 積極的に活動した 2 義務的に参加 3 無関心・消極的 |
| 4 あなたの家庭の職業をなるべく具体的に書いてください。() | 10 あなたは高校時代、政治や社会の問題に関心をもっていましたか 1 強い関心があった 2 いくらか関心をもっていた 3 なし |
| 5 あなたの高校時代は充実した生活でしたか。(高校時代の気持を思いおこして次のなかから一番あなたの気持に近いものを選んでください) 1 充実していた、満足していた、くいのない生活だった 2 だいたい満足していた、自分なりに努力した 3 とくになにも考えたことがない、なんともいえない 4 いろいろ不満があった、自分の気持をおさえてがまんすることが多かった 5 自分を殺したような生活だった、はやく高校を卒業してしまいたいと思うことが多かった | 11 あなたが鹿児島大学教育学部を選んだ「主な理由」を二つあげてください。 1 大学(学部)に魅力 2 教職志願 3 入学難易度と自分の学力 4 学校(教師)の進路指導 5 親のすすめ 6 地理的条件(通学の便や経済的負担など) 7 将来鹿児島で就職したい 8 とくに希望していたわけではない 9 国立大学であればよい(学部はどこでもよかった) その他 () |
| 6 あなたは高校時代、学校の勉強や受験勉強以外で、とくに「熱中した」ものがありましたか 1 あった 2 なかった | 12 あなたが入学当時、大学生生活に期待していたことを二つあげてください。 1 大学の講義 2 サークル活動 3 交友 4 自由な時間 5 自分の趣味を深める 6 親から自由になる 7 遊ぶこと 8 とくに期待したことはない 9 その他 () |
| 6-2 熱中したものがあつたら、次のなかからあてはまるものに○印をつけてください(いくつでもよい)(部・クラブ活動もふくむ) 1 文芸(読書や創作) 2 芸術(音楽・絵画などの鑑賞や演奏・制作) 3 映画・演劇(鑑賞や制作・参加) 4 研究(自然科学・社会科学などの学習・観察・実験・調査) 5 スポーツ(登山・旅行もふくむ) 6 社会活動(政治的活動や福祉・奉仕活動もふくむ) 7 生徒会活動 8 交友(恋愛もふくむ) 9 その他(オートバイ、ハム……具体的に書いてください) | 13 あなたの教養部での学生生活は、充実していましたか 1 充実していた 2 なんとなくすぎてしまったが、とくに不満はない 3 むなしい感じ |
| 7 あなたの高校時代、あなたに「影響を与えた先生」、あなたが「信頼していた、好きだった先生」はいましたか 1 いた 2 いなかった | 13-2 あなたが充実感を感じるのはどのような面でしたか。前問の回答にこだわらず、該当するものはいくつでも○印をつけてください。 1 学問的な面 2 サークル活動 3 自治会活動 4 社会的活動(ボランティアもふくむ) 5 政治的活動 6 交友 7 趣味的 8 その他 () |
| 7-2 その先生のどんな点に、あなたは魅力を感じたのですか、次のなかであてはまるものを、いくつでも○印をつけてください 1 学識の深さ 2 授業が面白い 3 指導の熱意 4 誠実さ 5 生徒とよくつきあう | 14 あなたは教養部の講義にどのくらい出席していましたか(全体として) 1 よく出席していた 2 科目にもよるが、比較的良好出席した方だ 3 普通だと思う |

- 4 自分の関心のある科目以外はあまり出席しなかった
- 15 教養部の講義のなかで、あなたに強い影響を与えたものがありましたか（たとえば、学問的な興味や関心を触発したもの、自分のものの見方や考え方を変えたもの、自分の研究(学習)課題を発見した、大学にきてよかったと思った……など） 1 かなりあった 2 いくつかあった 3 ほとんどなかった
- 16 あなたは教養部の講義を聴くなかで、自分が学部(教育学部)に進んでからする「専門分野」の学習とのかかわりを考えたことがありますか（たとえば、学問のつながり、研究方法として有益、関連する知識として大切、基礎的な学力として……など） 1 とときどき考えた 2 考えたことはない 3 ただ単位をとるのに追われていた
- 17 学部に進学してから、教養部の講義についてどのように思っていますか 1 教養の講義がおおいに役立っている 2 もっとまじめに授業をうけておけばよかったと反省している 3 あまり関係がない
- 18 あなたは教育学部での「専攻」・「選修」(現在所属している)が自分に適していると思っていますか 1 適している 2 適していない 3 わからない 4 教育学部自体が自分にあっていない
- 19 あなたは自分の専攻・選修している学問分野については、他の専攻・選修の学生より「かなり深く勉強している」と思っていますか 1 思っている 2 いくらか勉強しているがそう差があるとは思えない 3 とくに中心をおいた勉強はしていない
- 20 あなたは、卒業に必要なとか教員免許に必要なということとは関係なしに、自分の学問的(芸術・体育もふくむ)興味や関心から受講している科目がありますか 1 かなりある 2 いくらかある 3 ほとんどない 4 興味・関心のもてる科目自体があまりない
- 21 あなたの「今年(昭和57年)前期の受講時間割」で「空時間」は何コマありますか。(火、土曜は2コマ、他は4コマとかぞえる) 1 空時間なし 2 1~3コマ 3 4~6コマ 4 7~9コマ 5 10コマ以上
(受講申請時の時間割で答えてください。途中で放棄したものも受講として数える)
- 22 あなたは、免許状を何種取得する計画ですか。(中学一級と高校二級が同時に取得できる場合でも二種と数えてください。)
- 1 一種 2 二種 3 三種 4 四種 5 五種(以上も)
- 23 あなたは学部の講義(実験・演習などもふくむ)にどのくらい出席していますか(全体として) 1 受講しようと思っているものはほぼ出席 2 科目にもよるが、比較的良好出席している 3 普通だと思う 4 自分の関心のある科目以外はあまり出席していない 5 出席をとる科目以外はあまり出席しない
- 24 教育学部の講義のなかで、あなたに強い影響を与えたものがありますか(たとえば、学問的な興味や関心を触発したもの、自分のものの見方や考え方を変えたもの、大学にきてよかったと思ったもの……など) 1 かなりある 2 いくつもある 3 ほとんどない
- 25 あなたの「教育」や「教職」についての考え方は、学部での生活のなかで、変化しましたか 1 教師になってがんばろうという気持が強まった 2 教師になることに自信がもてなくなった 3 とくに変わったことはない
- 26 あなたは「教育」に関する勉強をどのようにしていますか 1 講義などを聴く程度 2 講義などで紹介された書物をできるだけ読む 3 教育関係の雑誌をよく読む 4 教育の実践記録やルポルタージュなどの本をよく読む 5 教育に関係ある専門書をよく読む 6 「教育」に関してとくに勉強していない 7 その他()
(○印はいくつでもよい)
- 27 あなたは日本の教育をよりよくするために、日教組(日本教職員組合)は積極的な役割をはたしていると思いますか。(総体的にみて) 1 積極的な役割をはたしていると思う 2 むしろ反対に否定的な働きをしていると思う 3 どちらともいえない、わからない
- 28 あなたが教師になったら、日教組に加入しますか 1 加入するだろう 2 加入しないつもり 3 わからない
- 29 あなたは、これまでの大学での学習(教養部教育もふくむ)でどんな「力」を身につけたと思いますか。(○印はいくつでもよい)
[かなり自信 [ある程度力 [とても自信
がもてる] はついた] がもてない]
- 1 一般教養 2 一般教養 3 一般教養
4 教科専門 5 教科専門 6 教科専門
7 教育の本質 8 教育の本質 9 教育の本質
10 子ども理解 11 子ども理解 12 子ども理解
13 教育の方法 14 教育の方法 15 教育の方法
16 教育実践力 17 教育実践力 18 教育実践力

「問題」を起さなかった青年が大半であるとみてよいだろう。しかし、そのように学校や一般社会(親たちも含め)が「評価」している「教育の成果」が、人間的な成長や自発的な学習意欲や知的関心などを形成したかどうか、はなはだ疑問である。

この調査では、大学生の「学習意欲」の実態をとらえ、その意欲の形成にかかわりがあると思われる高校時代の生活との関連をさぐることに、また意欲と関連していると思われる事柄を調べ、大学教育の改善の手がかりを得ようと考えて、調査項目を構成した。質問文は〈第1表〉のとおりである。

質問は、属性(1~4) 高校時代の学校生活(5~10) 大学進学(11~12) 教養課程の生活(13~16) 専門課程の生活(17~26) その他(27~29)の6領域で構成した。それぞれの質問の意図については、調査結果の分析のさいに必要なに応じて説明するので、ここでは全体の構成の意図を簡単に説明しておこう。高校時代は青年の自我が形成される重要な時期であるので、この自我の形成に働く「生活の充実」の状況をとらえようと考えて「高校時代」の設問をつくった。そこでは青年期に当然充されるべき経験がとりあげられている。これらは大学での学習生活に直接につながるものではないが、基盤として重要であると考えた。進学については、志望の理由と大学生活への期待をたずね、入学時点における大学での学習にたいする目的意識性をみようとした。教養課程は戦後の大学教育の重要な特質をなすものであるが、学生はこの課程をどう意味づけているかをさぐろうとした。専門課程についての質問は、教養課程と同じ質問を用意して、教養と専門との関係(学生の意識・行動における)をみるとともに、教育学部の特殊性(教員養成の教育)の問題点をさぐろうとしたものである。最後の3問は、大学教育のなかで「現実」についての認識とそれにもとづく実践的な決断力がどれほどつくられてきているかを「日教組」についての質問で推定しようとし、また学生の学習についての自己評定で大学教育についてのうけとめをさぐろうとしている。

この調査は、筆者の担当している「教育行政演習」(1982年度)で「現代の青年と大学教育」というテーマをとりあげ学習をすすめるなかで計画され、学生と討論しながら質問項目をつくり実施したものである。調査時期は1982年9月、対象は教育学部の専門課程の学生である。標本抽出は統計学的手順による無作為抽出ではなく、演習受講学生20名が各人10名の質問紙をうけもち、自由に対象者を選び、記入してもらい回収するという方法をとった。回収された結果をみると、調査員の学生は同性・同学年の被調査者を選ぶ傾向がみられ、その結果ほとんどが小学校課程の学生になった。標本は小学校課程の学生については「無作為抽出」に近いものになっているようである。(第2表「標本の属性」の職業構成に、昭和56年6月実施の学生部による20%無作為抽出の調査結果を付記してあるが、それとほぼ同じ結果になっている。)なお、本学部では教育実習が9月から10月にかけて行われ、3年次生が「主免実習」4年次生が「副免実習」を経験する。この調査は、この教育実習の直前に行われたので、3年次生以下は「未実習」である。また、第2表に示されているように男女はほぼ同数であるが、女子は3年次生以下が多く、以下の分析で「性差」は「学年差」を含んでいる可能性があることも留意する必要がある。

第2表 標本の属性

(%) 小数点以下4捨5入

性別	男 50				女 50				実数(計) 199			
所 属	小学	91	中学	7	養護	1	不明	2				
学 年	2年	5	3年	50	4年	39	5年	4	6年以上	2	不明	1
職 業	農水	8	商工	16	勤労者	25	教員	21	公務員 ¹⁾	21	その他	9
(参考) ²⁾		9		16		23		14		23		15

※1 公務員は教員を除いてある

※2 昭和56年学生部が20%抽出で実施した教育学部学生の家庭の職業

学年	3年以下	4年	延期生
男	41	47	12
女	69	31	0

2 教育学部学生の高校生活

第3表 高校時代の生活 (%)

質問番号	内容/選択肢番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	備 考 (性差)
5	高校生活充実度	14	42	17	21	7						** 男子①⑤に両極化の傾向
6	熱中体験有無	61	39									NS
6-2	熱中の対象	10	22	10	3	19	1	5	22	2		** 多重選択 分母は 199
7	好きな教師有無	65	35									NS
7-2	魅力点	20	20	41	25	13	11	22	31	6	38	** 多重選択 分母は 130
8	親友有無	90	10						11	12	6	** 男子に「いない」が多い
9	生徒会活動	9	52	39					21			NS
10	政治・社会への関心	7	51	43								** 女子の関心が低い

備考欄中の(*)は性差の有無についての χ^2 検定の結果を示す。有意水準を5%と10%に設定し、5%で「独立」仮説が棄却されるものは**, 10%は*と記した。

まず、教育学部生の高校生活の全体的特徴を摘記しておこう。「高校時代、充実した生活」をおくったとする者は14%で、これはかなり低い値である。「だいたい満足」という者も含めて「満足群」としても56%である、国立大学に入学した学生は高校生全体のなかでは「順調」な高校生活をすごしてきた青年たちが大半であろうから、いかに高校生活が問題をもっているかがこれからもうかがえる。「不満群」は28%もいる。この「高校生活充実度」は性差があり、5%水準で「有意」な差である。(男子が「充実」、「強い不満」の両方で女子より高い%を示している。)彼らは高校時代に「自己燃焼」の経験をどれほどしているか、「熱中体験」では61%で、これも決して高い値とはいえない。つまり学生の約4割は、高校時代「自分をうちこむもの」がもてないままにすごしてき

